

春ごろ発表された総合電機八社の最終損益が4社赤字で4社減益となり“総崩れ”となったことは記憶に新しい。震災、超円高、世界経済の減速、タイ工場の洪水被害、電力不足による生産能力低下や韓国勢の躍進により、かつて世界を席卷した“日の丸電機”は未曾有の危機に立たされた。

何せ31年ぶりに貿易赤字という昨今である。それにともない、ソニー1万人、パナソニック4万人、NEC1万人などの大リストラも進行中だ。赤字額もまたハンパなものでなくパナソニックの7800億円を筆頭に、シャープ4000億円、ソニー4500億円、NEC1000億円とそれぞれ過去最大となった。世界のゲーム業界の頂点に君臨してきた任天堂でさえ初の赤字転落だ。「売れば売るほど赤字」らしい。米倉弘昌経団連会長も「とてもじゃないが耐えられない」とぼやく。

そう言えばバブルの頃「ワッハッハ」と高級寿司屋で笑っていた在米日本企業社長たちも何処へか消え去った。仏教語である「盛者必衰」については聖書ではもっと古くからもっと手厳しく書かれている。

「人は神の前に出て裁きを受けるのだが、神はその時を定めてはおられない。数知れない権力者を打ち倒し、彼らに代えて他の人々を立てられる。彼らの行いを知っておられるので、夜間にそれを覆し、彼らを砕き、神に逆らう者として見せしめに、彼らを打たれる。彼らが神に従わず、その道を何ひとつ受け入れなかったからだ。」

ヨブ記 34 章 23-27 節：共同訳

とある。おまけにヨブ記は約4000年前に書かれた聖書で最も古い箇所、つまり人類最古の本で、釈迦が生まれる1500年も前から人類に警告を発していたことに驚く。このキリストのメッセージを無視する限り、日本の再生はありえない。

2012-6-26

